

## 資料 5

### 平成 17 年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果（報告）

研究課題名	主任研究者	所属組織	研究期間	評価結果	コメント
環境化学物質の発がん性・遺伝毒性に関する検索法の確立と閾値の検討	津田洋幸	名古屋市立大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当。
器具・容器包装に用いられる合成樹脂のリスク評価法に関する研究	広瀬明彦	国立医薬品食品衛生研究所	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当
BSEにおける脊柱・筋肉内神経組織のリスク評価と経口摂取 シート蛋白の体内動態	小野寺 節	東京大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	研究計画の改善が必要	当初計画どおりの成果が得られていない。 残りの研究期間で最大の成果が得られるよう研究計画を改善することが望まれる。
多剤耐性サルモネラの食品を介した健康被害のリスク評価に関する研究	牧野壮一	帯広畜産大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	研究計画の改善が必要	当初計画どおりの成果が得られていない。 残りの研究期間で最大の成果が得られるよう研究計画を改善することが望まれる。
免疫細胞生物学的・構造生物学的手法を用いた食品成分のアレルギー発現性評価法の研究	八村敏志	東京大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当
定量的リスク評価に応用可能な手法の探索、分析及び開発に関する研究	春日文子	国立医薬品食品衛生研究所	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当
効果的な食品安全のリスクコミュニケーションのあり方に関する研究	関澤 純	徳島大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当
食品災禍時のリスクコミュニケーションの実態調査(風評被害を含む)及び災禍の性格分類	今村知明	東京大学	平成17年度 ～19年度 (3年間)	継続	概ね計画どおりに実施され、着実な成果が得られている。 当初計画に沿って引き続き推進することが妥当